

昭和から平成。そして、新たな時代へ語り継ぎたい物語。 知られざるヒロインたちの感動の実話、遂に映画化!



怒った。泣いた。笑った。そして、生きた。

1944年の東京。20代を中心とした若手保母たちが、国の決定を待たず、日本で初めて園児を連れての集団疎開を敢行した、いわゆる「疎開保育園」の事実はあまり知られていない。これは、幾多の困難を乗り越え、託されたいのちを守りぬこうとするヒロインたちの奮闘を描いた真実の物語。大切ないのちを未来へつなぐことを願い、毎日在必死で戦った保母たち。強い信念で時代を切り拓いていった彼女たちの生き様は、時を越えて今を生きる我々を魅了し、大きな勇気と希望を与えてくれる。

主演は、目覚ましい活躍を続ける実力派女優・戸田恵梨香と、女優・歌手としてフィールドを広げる大原櫻子。また、今後の映画界を牽引する期待の新鋭俳優たちが共演し、林家正蔵、夏川結衣、田中直樹、橋爪功ら日本を代表する俳優たちが脇を固める。メガホンをとるのは『ひまわりと子犬の7日間』の監督であり、長年山田洋次監督との共同脚本、助監督を務めてきた平松恵美子。



STORY

戸越保育所の主任保母・板倉楓は、園児たちを空襲から守るため、親元から遠く離れた疎開先を模索していた。最初は反発していた親たちも、子どもだけでも生き延びて欲しいという一心で保母たちに我が子を託すことを決意。しかし、ようやく見つけた受け入れ先はボロボロの荒れ寺だった。

幼い子どもたちとの生活は問題が山積み。それでも保母たちは、子どもたちと向き合い、みつちゃん先生はオルガンを奏で、みんなを勇気づけていた。そんな願いをよそに1945年3月10日、米軍の爆撃機が東京を襲来。やがて、疎開先にも徐々に戦争の影が迫っていた――。



太平洋戦争末期、53人の子どものいのちを守った保母たちがいた。

誰もが自分のことで精一杯だった時代、彼女たちを突き動かしたものは一体なんだったのか?

あの日のオルガン

anohi-organ.com



2018年11/19分/カラー/ビスタ5.1ch © 2018「あの日のオルガン」製作委員会

前売券 1,200円 発売予定日/7月23日～(販売所により発売日が異なる場合があります。)
(当日券/一般:1,500円、高校生以下:800円、**悠悠映画塾会員は1,100円**)

前売券販売所 ザ・ヒロサワ・シティ会館、水戸京成百貨店、ひたちなか市文化会館、デジタルチケット
【前売券予約電話番号】茨城映画センター内:090-2641-3156
(土・日・祝日を除く 午前10:00～午後5:00)

PassMarket



※デジタルチケットは、上記の二次元コードより購入できます。

チラシ持参で一般当日券1,300円に割引

●感染症対策の為、発熱や体調不良時には来場をお控えいただきますようお願いいたします。またご入場の際等、適宜手指の消毒にご協力をお願いいたします。